

第2回 学校関係者評価委員会

- 1 **実施日** 令和4年1月18日(火) 午後4時～4時40分
- 2 **会場** 図書室
- 3 **参加者** 学校関係者評価委員 中澤 弘 (教育振興会会長) 志村 成美(教育振興会副会長)
清水 龍二(教育振興会副会長) 戸澤 聡 (教育関係有識者)
竹山真由美(主任児童委員)
望月 一輝(保護者代表・PTA会長 学校関係者評価委員長)
小野 千恵(保護者代表・PTA副会長)
- 学校側 望月 政幸(校長) 矢崎 健(教頭)
福井 初美(教務主任) 三枝 秀明(生徒指導主任)

4 学校側から提案された内容

- (1) 教職員自己評価(教務主任) (2) 児童アンケート(生徒指導主任)
(3) 保護者アンケート(教頭)についての解説や考察, 具体的な学校の様子を説明した。

5 協議された主な内容

学校側からの説明を受け, 学校関係者評価委員長が座長を務め, 座談会を行った。

※○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

*コロナ禍ということもあり, 感染症に関わっての御意見がほとんどだった。また, 席の間隔を十分に取り短時間で済ませなくてはならず, 参加者同士が十分に意見交換をすることができなかった。いただいた御意見も少なかった。

(1) 教育活動について

【学校行事に関わって】

○例えば, 修学旅行2泊3日ができないなど, その時期ならではの活動ができなかったのはかわいそう。勉強などは後で補えるが, その時にしかできないことは後で補えない。それはかわいそうと思った。

○コロナ禍が当たり前になってきている。ストレスを抱えているのは分かる。行事が縮小したりなくなったりするのは子供にとってショックだと思う。口にはあまり出さないが, 親には見えないところでショックを感じているように思う。

☆コロナ感染症の蔓延の仕方に波があり先が見通せず, 今の状況なら大丈夫だろうと思っていても突然拡大するなどして計画していたことができなくなったり縮小したりすることがしばしばあった。その時その時でできる最大限のことを計画し, 児童にとって最も教育的効果や満足感が得られるように考えてきた。感染症が拡大している現状において, 中止や縮小はやむを得ないことである。その中で子供たちの成長を促せるような取り組みを児童, 保護者とも連携しながら探していきたい。

(2) 生徒指導について

【登下校中のことについて】

○行儀がいいのか、コロナで話ができなくておとなしくなったのか、登校中の児童の声が聞こえない。
○朝は静かに登校している児童が多い。帰りは同学年のまとまりからか声が聞こえてくる。外にいと「ただいま」と明るく返事をしてくれる。

☆本校は、集団登校をしているので、登校中に私語を許すと列が乱れるなどして危険なこともある。また、現在コロナ対策として、登校中にも余計なおしゃべりはしないよう指導している。ただし、保護者アンケートにも表れていたが、あいさつができない児童が多い。この点については学校でも気が付き、児童会本部を中心に取り組みを重ねているところである。

(3) 安全・安心について

【登校中の様子について】

○登校中の横断の様子を見ていると、例年だと4・5月に学んだ道路の渡り方が2・3学期に崩れるが、今年度は旗も笛もしっかり使って「右、左、右」と声を出して渡れている。

☆今年度は担当が時々道路の渡り方について指導している。また、地域の見守りの方々の御指導も生かされていると思う。児童の安全確保のため、保護者、地域、学校が連携し児童が自ら自分たちの安全を守るような指導をしていきたい。

(4) その他

○冬休みに予定していたことがコロナのためにできなかったことで「来年にしよう」と言う子供から「もうあきらめているよ」との返事があった。かわいそうだと思う。できることはやってあげたい。カフェができて行った時も「食べる時以外はマスクね」と言っていた。With コロナでやっていくしかない。

○先生方が指導する感染対策のルールを子供たちが守っている。子供たちはコロナ禍のそのルールが自然だと思っている。

☆現在やりたいこともできず、窮屈に感じる面もあることと思われる。しかし、現状をよく認識し受け入れるしかない。そうでなければ、感染の危険に一層晒らされることになる。そうならないためにも、感染対策を徹底していかななくてはならない。

6 全体評価

全体傾向を把握するため、[A：そう思う][B：ほぼそう思う]という評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』、[C：あまりそう思わない][D：そう思わない]という評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある』と判断している。

(1) 教職員自己評価について

35問中33問において、肯定的評価85%を超え、満足できる状況にあると考えられる。しかしながら、「教科等の指導」に関しては、評価を落としている項目が多い。その中でも特に、「総合的な学習の時間」に関しては、-19%と大きく評価を落とした。総合的な学習の時間においては外部の人材や教材との関わりも多く、それができなかったため成果が上げられなかったと考えられる。半面、保護者は「教科等の指導」については1学期よりも高評価を出してくれている。そのことは、自己評価の「研究・研修」の項目が高評価になっていることの表れだと考えられる。前期に評価が高かった「各教員が、多忙化解消に向け、意識した取り組みを実践している。」は4%ではあるが肯定的評価が下がっている。感染症対策に追われ多忙感が増したものと思われる。学校の大切な業務は、児童の安

全・安心を守りつつ学力の向上を図ることである。コロナ禍において、両者を推進できるように努力していきたい。

(2) 児童アンケート評価について

11問中10問において、肯定的評価が85%を超えている。前期に引き続き、改善の余地があると判断される内容は、「自分で考えたことを、進んで発表している。」である。前期同様、「勉強がわかる」「しっかり聞く」は肯定的な評価を得ているが、なかなか自分の考えを発表することができない児童がいる。また今年度は、コロナ禍で学習のスタイルが変わってしまったことも一つの要因になっていると思われる。感染予防対策で話し合い活動ができないが、主体的に学習活動へ取り組み、自分の考えを発表、発信し高めあう子どもを今後も育てていきたい。

(3) 保護者アンケート評価について

20問中19問で肯定的評価が80%を超えている。このことから学校教育に対する保護者の評価は安定して高いと捉えることができる。また、アンケート回収率も99.0%と非常に高い。【子どもの様子について】の「子どもは、学習が分かり、基礎学力が身についている」かの項目が1学期73.2%だった評価が2学期には84.9%にまで向上している。教員自身はコロナ禍で指導に対して納得できていないものの、2学期は研究に熱を入れる時期でもあり、その効果があったためと思われる。あいさつについての項目が1学期に比べ大きく評価を下げた。校内においてもあいさつについては課題と捉えており、2学期以降児童会本部を中心にあいさつ運動に取り組んでいる。今後も継続的に取り組み、あいさつの輪を広げていきたい。

(4) まとめ

後期の学校評価においても、高い水準で肯定的に回答されている。このことは、本校の教育活動が安定して行われていると考えることができる。改善の余地がある項目は、特に、自己評価の「教科等の指導」に関わる内容であり、今回のアンケート分析でも課題となっている。特に基礎学力の定着と学力の向上については、学校としても重点的に取り組んできているが、コロナ禍、さらに本校の重点課題として、教師が一丸となりきめ細かく丁寧な学習指導に取り組んでいく。

7 今後の課題として意識されたこと

(1) コロナ禍、児童の人間関係や心の発達が課題として上げられた。地域の方たちからは、地域としてできることはできる限り行っていきたいとのことをおっしゃっていただいている。学校としてもコロナばかりでなく様々なことへの安全配慮をしつつ、最大限教育的効果が上がるように学校全体で取り組んでいきたい。また、保護者や外部機関と連携を図り、丁寧に対応していく。

(2) 保護者の学校への期待はとても大きい。学校は、その期待に応え、また、保護者の信頼を得、かつさらに深める教育活動を展開しながら、学校教育目標の具現化に努めていく。

8 特記事項 なし

記載責任者 学校関係者評価委員会委員長（PTA会長）望月 一輝